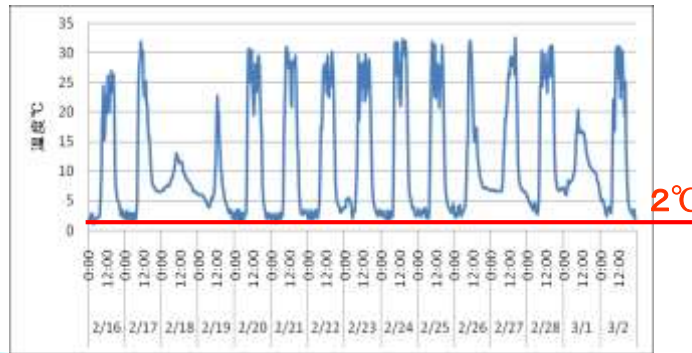


‘紅まどんな’の新作型の開発

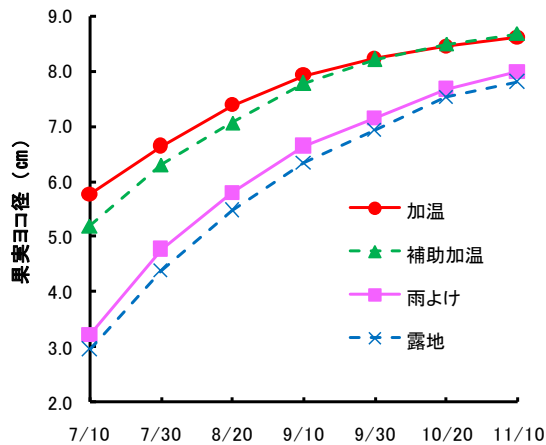
燃料費が節減できる紅まどんなの新作型を開発した。2月上旬からフィルムを被覆し、最低温度2℃以上を維持する補助加温ハウス栽培は、大玉で食味に優れ11月下旬に収穫できる。

特徴

フィルム被覆期間：2月上旬～5月下旬
 温度管理：出蕾期まで最高温度25～30℃
 最低温度2℃以上
 開花終まで最高温度25℃以下
 満開：4月下旬

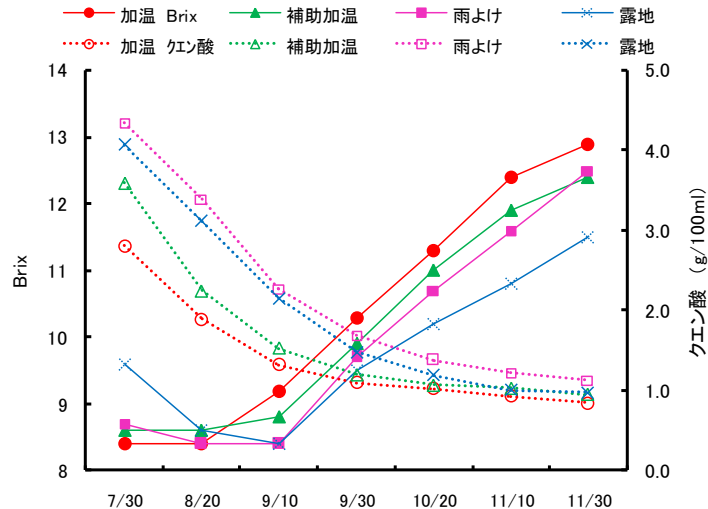


果実肥大

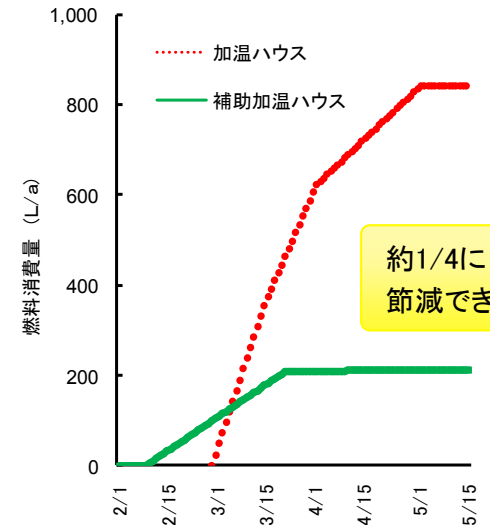


注) H25、26年度の平均値、加温ハウスはH23、24年度の平均値

品質



燃料消費量



約1/4に
節減できる

3L以上の階級割合が高く、食味に優れ、収穫時期は11月下旬。燃料費が低コストで、3月上旬加温(最低温度16℃)に匹敵